

# 本のひろば

## 出会い・本・人

出会うべき時に出会う本がある

福万 広信

## 本・批評と紹介

ルター研究所 編

宗教改革五〇〇周年とわたしたち1

滝田浩之

大野恵正 著

旧約聖書入門1 小林洋一

並木浩一 著

並木浩一著作集1

ヨブ記の全体像 永野茂洋

栗林輝夫、大宮有博、長石美和 著

シネマで読むアメリカの歴史と宗教

山我哲雄

月本昭男、大貫 隆、西原廉太 総合監修

日本版インタープリテーション83

アドベントと典礼 笹森田鶴

小山英之 著

教会の社会教説 栗林輝夫

ダニエル・ボヤーリン 著/土岐健治 訳

ユダヤ教の福音書 岡安 博

船本弘毅 著

水平から垂直へ 川田 殖

加藤常昭 編

シリーズ・世界の説教

ドイツ告白教会の説教 天野 有

大串 肇 著

頑な心と新しい心 江本真理

袴田康裕 編

世の光となる教会を目指して 田邊由紀夫

マルティン・ルター 著/石居正己 編訳

ルター選集1

ルターの祈り 大柴譲治

既刊案内

書店案内

4 APRIL  
2014



新教出版社  
創立70年記念  
連続神学講演会  
のご案内

4月26日 宮田光雄氏 「バルメン宣言の政治学」  
——バルメン宣言80年を覚えて

7月26日 佐藤 優氏 「危機を超越する福音」  
——フロマートカの受肉論に学ぶ

10月25日 荒井 献氏 「最後のパウロ」  
——使徒行伝28章30―31節に寄せて

いずれも土曜午後2時より日本基督教団 信濃町教会にて（第3回のみ予定）。入場無料ですが事前にメールかファクスでお申込をお願いします。

アマゾン Kindle 版  
発売中 携帯でも読めます

月刊誌『福音と世界』  
3月号 (特集: 一神教 vs 多神教?) 発売  
◆定価 600円

単行本  
ボウカム イエス入門  
ハーマー 折られた花  
日本軍「慰安婦」とされた  
オランダ人女性たちの声  
◆いずれも定価 1250円

オンデマンド版出来  
バルト キリスト教的生I  
最晩年の「和解論」の倫理。  
天野有記。 ◆本体 8800円

# 神学の履歴書

3月25日

佐藤優著

初学者のための神学書ガイド



バルト、フロマートカ、トレルチからマクグラスまで、初学者が読むべき13冊を取り上げ、その読みどころを懇切に解説する。佐藤優流の神学ゼミナール。『福音と世界』連載の待望の単行本化。 ◆四六判・本体1900円

# ただ神を待つ

3月25日

石丸新著

ダビデのまねび

我らの信仰の先達・証人としてのダビデに着目し、四〇編以上の詩編を味読する。その神賛美の深さと興行きに導かれ、悔い改めと新しい服従に促される。補論「ダビデと詩編がJ・カルヴァンに及ぼした影響」を巻末に付す。 ◆四六判・本体2200円

# 教皇フランシスコとの対話

セルヒオ・ルビン他著／八重樫克彦・由貴子訳  
みずからの言葉で語る生活と意見



2人のジャーナリストの質問に率直に答えた注目のロング・インタビュ。生い立ちや司祭への道のり、教会の抱える課題、そして祖国アルゼンチンのことを本音で語った枢機卿時代の貴重な証言。 ◆四六判・本体1500円

好評の既刊

# 教皇フランシスコ 12億の信徒を率いる神父の素顔



M・エスコバル著／八重樫訳  
バチカンに詳しい気鋭の記者の書き下ろし。解説はかつての教え子ホアン・アイダル上智大学准教授。 ◆四六判・本体1400円



## 出会い・本・人

### 出会うべき時に出会う本がある——福万 広信

私が勤務する小学校のメディアセンター（図書室）には、毎日多くの子どもたちがやってくる。昨年一年間に貸し出された本の数は四万二千四百七冊、これは五百四十名の児童が平均七十八冊を借りている計算になる。年間二百冊以上借りている子どもも四十人近くいるそうだ。

自分が小学生の頃、どれほどの本を借りて読んでいただろうか。とにかく本を読むことが嫌いな子どもも多かった。月に二冊か三冊も借りればよいほうで、その本ですら最後まで読んでいたかは疑わしい。そんな本嫌いだった私の自宅のリビングルームには、今、壁一面に所狭しと本が並んでいる。もちろんキリスト教関係の本が多いのだが、大学に入った頃からだろうか、必要に迫られて本を読むようになり、いつの間にか本に囲まれた生活を心地いいと感じるようになっていった。

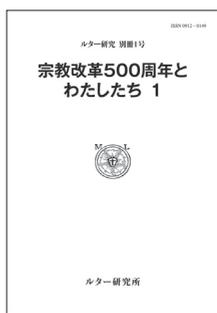
本棚に並べられた本を何となく眺めることがある。本のタイトルを目にしたたり、ページを少しめくるだけで、不思議にこれまでの人生の様々な光景、特に自分が苦勞していた時のことが頭に浮かんでくる。神学生時代、レポートや論文を書くために必死だった頃のこと。牧師になり毎週の説教作りに苦しんでいた頃のこと。教会とは何か、牧師とは何か、と悩みながら牧会をしていた頃の

こと。学校の教師として働き始め、慣れない仕事で苦勞した頃のこと。そして愛する者を失い、悲しみの中にいた頃のことなど……。人生の様々な時に読んだ本、そこには心に響いた言葉に線が引かれていたり、ページの角が折られていたりする。それらの文章を読むと、その時に自分が何を考え、何に悩んでいたのかを思い出す。そして同時に、それらの本との出会いによって自分の歩みが支えられてきたのだと感じさせられる。人生には、大切な人との出会いと同じように、出会うべき時に出会う本があるのだと思う。

私は自宅でのほとんどの時間をリビングルームで過ごす。その場所が最も落ち着く場所だからだ。それはかつて悩み苦しんだ時に、自分の歩みを支え、励まし、希望を与えてくれた本たちがそばにあるからなのかもしれない。デジタル化の時代となり、本の読み方も変わってきた。デジタル書籍にはデジタル書籍の良さがあると思う。しかし、「物」としての本にはデジタル書籍には真似できない存在意義がある。自分のすべてを知っていてくれる人がそばにいてくれる安心感、それと同じような安心感を「物」としての本はいつも与えてくれるからだ。

（ふくまん・ひろのぶ 関西学院初等部宗教主事）

## 宗教改革五〇〇周年とわたしたち1



滝田浩之

二〇一七年は「宗教改革五〇〇周年」の年にあたります。

このマルティン・ルターに端を発する「宗教改革運動」の血筋に生きる教会が、宗教改革五〇〇周年をいかに迎えるのか、そのことを問うのが本書です。それは『宗教改革五〇〇周年とわたしたち1』という題名がそれを端的に示しています。よって「われわれ」に属すると自らを理解する教会であれば、これは必読の書ということになります。

特徴としては、宗教改革を考える時に、マルティン・ルターに徹底的にこだわっている点です。これからも原則的にはこだわって、二〇一七年までに、後四冊、計五冊の出版が計画されています。背景にはルター研究所主催の「牧師のためのルターセミナー」が、このテーマに沿って開催され、その講義をベースに論文となって、この出版を支える予定となっています。そもそも話されることを前提に書かれているものだから、とても読みやすく、テーマも、主題も明確なものになっています。

「牧師のためのルターセミナー」と銘打ってはいませんが、向学心のある信徒の方にも出席は開かれており、高度な神学的素養

を必要としない工夫に満ちていますので、入門的な形で手にとって頂けるのではないのでしょうか。

前半三人の論文、徳善義和氏（ルーテル学院大学名誉教授）、江口再起氏（東京女子大教授）、江藤直純氏（ルーテル学院大学教授）を読んでいて想起したのは、マックス・ウェーバーが指摘した、ルターは自己を神の器と感じカルヴァンは自己を神の道具と意識したというテーゼでした。「義認と聖化」と言い換えてもいいかと思えます。「たとえ明日世界が終わるとしても、それでも今日わたしはりんごの木を植える」、ルターの言葉ではないが、ルターの言葉とされる、この「りんごの木を植える」というありようを、どう語ることができるかという点について、三者三様の可能性を見させて頂くことができました。

また、T・マッケンジー氏（ルーテル学院大学教授）の整理してくださった、ルター派の信仰告白をまとめた『一致信条集』の翻訳の歴史については、これから始まる『一致信条集』研究に不可欠なものであり、特に、先の三氏が指摘する課題である、アウグスブルグ信仰告白から、和協信条に至る歴史研究、ある

いは思想研究に大きく貢献するものと思われれます。

今回、三者の理念的な提案以上に感動したのは、現場の牧会を抱えつつ、ルター派の教理問答であるルターの『小教理問答』の問題についてまとめられた高井保雄氏（日本ルーテル羽村教会牧師）の論文でした。恐らく、現場における堅信教育の実際の中で問題意識を持たれ、これをエラスムスのエンキリディオ（必携の書）と比較され、ルターの『小教理問答』執筆の動機まで掘り下げてくださった成果は大きなものがあります。加えて、『小教理問答』の印刷にいたる経過での小題の変化を詳細にあたることで、これが最終的にまとめられた形にルターの意図を読み取り、日本において印刷にふされている『小教理問答』の完全版と、手に取りやすい冊子印刷を提言してくださったことで、宗教改革五〇〇周年への具体的取り組みを教えられました。

最後に徳善義和氏（ルーテル学院大学名誉教授）が寄せてく

ださっている『ルターの讚美歌考』もまた、二〇一七年までに取り組むべき具体的方向性に満ちたものでした。ルターの讚美歌への取り組みの情熱（礼拝へのとすべきでもある）を、われわれもまた新たにしなければなりません。

いずれにせよ、私から見れば、大先輩の方々の力作に満ちており、神学的にも、具体的提言としても示唆に満ちた書物です。「宗教改革五〇〇年」は、それぞれの教会で備えられていくことかと思えます。教派を問わず、ルーテル教会の取り組みの一端という点だけでも手にとって頂けますと幸いです。

（たまた・ひろゆき 日本福音ルーテル大阪教会牧師）  
（A5判・一四〇頁・本体二〇〇〇円＋税・リットン）



## 新刊 宗教改革 500周年と わたしたち 1

ルター研究 別冊1号

ルター研究所 編

●A5判並製 定価2000円＋税

問題提起：  
ルターの現代的意義を問えば  
—「宗教改革五〇〇年と私たち」  
を考えるために  
徳善 義和

ルター・プロテスタンティズム・  
近代世界  
—宗教改革五〇〇年のために  
江口 再起

ルターの宣教の神学と今日の  
ルター派の宣教理解(1)  
江藤 直純

『ルーテル教会信条集(一致信  
条書)』の邦訳の歴史的背景と  
意義  
ティモシー・マッケンジー

ルター、エラスムス、  
エンキリディオ、悔い改め  
高井 保雄

ルターの讚美歌考  
—『バプスト讚美歌集』  
(一五四五年)に見る  
徳善 義和

LITHON [リットン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402  
FAX 03-3238-7638

旧約聖書をどう読むかの優れた手引書

大野恵正著

## 旧約聖書入門1

現代に語りかける原初の物語



小林洋一

旧約聖書は、どうも取っ付き難い。そう感じる人はキリスト者の中でも少なくありません。この度発刊の本書は、旧約聖書のもつ、謎に満ちた豊かな使信に触れるための格好の書として、苦手意識をもつ人だけでなく、一人でも多くの人が手にして欲しい一冊です。本書は、親しみある平易な「です、ます」調で書かれています。一般読者を意識してのことと思われませんが、学的レベルを保持しつつも脚注・巻末注などの注が一切使用されていません。

本書は十五章からなり、内容は、本題の「旧約聖書入門1」と副題の「現代に語りかける原初の物語」に即応する形で、大きく二つに分かれます。第一部は五章からなり、旧約聖書を読み解くにあたって、その興味が倍加するように、古代イスラエル史、旧約聖書の構成、成立史、本文史、翻訳史、正典史などが、実に興味深い仕方でも簡潔にまとめられています。特に、読者が直面するであろう聖書の神の「矛盾」についての解説には、著者の積年の神学的省察が反映され、共感をもって受け止められるものです。

ち得るかを解き明かしたものです。

この「原初の物語」の読み解きにおいても、本書には注目すべき教えが幾多も見られます。その一つに「祝福」(一・二二、二八節)についての解釈があります。著者は、祝福とは、「生が肯定され、受容され、承認されている事態」(二四二頁)であるとして、「聖書の人々が混沌とした惨憺たる状態に身を置き続けながら、なお逞しくあり得たのは」、この祝福のことばを「繰り返し聞き、それを生き続けたから」(同頁)と語り明かします。さらに、人間による他の被造物「支配」(二・二六―二八)をめぐっては、それは、神の統治の模倣でなければならない(一四八頁)とし、「神の目に動物たちが良しと見られるのと同じ眼差しをもって、動物たちを治めること」(二四八―二四九頁)である。それ故に、その統治観は、「神の祝福が自然世界を支配するようにスチュワードする」(二五二頁)ことにある、と説かれます。

その矛盾は、「神が生々しい現実の中で働く生きた人格的存在者」(三二頁)であるが故に生じており、それこそが「聖書が真実な書物であることの証拠」(三三頁)である。それ故に「異なる状況の中で語られる神の言葉と神の出来事は、状況によって変る」(三三―三四頁)。その証言の多様性(例えば、ヤハウイスト、申命記、祭司の各資料)こそは、旧約聖書における宗教的豊かさの立体的理解のために肯定的・積極的に捉えられるべきものである(七四―七五頁)、と提言されます。これは、本書の後半部にあつては、聖書そのものが、事柄を単眼的ではなく複眼的に見るように書かれており、矛盾と見えることの中に神の前にあることの真相が立ち現れてくる(二五五頁)として強調されます。

第一部で、聖書についての贅沢な手ほどきを受けた読者は、第二部で、実際のテキスト解釈へと導かれます。第二部は十章からなり、創世記一―十一章の「原初の物語」が取り上げられます。この解釈は、忠実な釈義を基本に、それを、現代に生き苦闘している人への伝言(二七〇頁)として、いかなる意味をも

本書は、旧約聖書をどう読むかの優れた手引き書であり、読者はそこから、現代社会が抱える諸問題への預言者的警告を含む、旧約聖書を読み解くための有益な示唆、洞察、知恵を探り取ることが出来ます。なお、これは筆者の個人的関心事なのですが、「その頃の陶片に古ヘブライ文字で記された断片的記録が出土している」として、古代イスラエルにおける文書記録の普及を紀元前七世紀以降(四九頁)とする場合、紀元前十世紀のゲゼル農事暦碑文の存在はどのような位置づけになるのか、またヘブライ人は石器しか持ち合わせておらず、鉄器の武器を持つペリシテ人に太刀打ちできなかった(五二頁および六四頁)とあるのですが、青銅器の武器の有無はどうだったのだろうかなど、本書をとおして興味ある課題が誘起されたことも書き添えておきます。

(こばやし・よういち 西南学院大学名誉教授)  
(小B6判・二七〇頁・本体一八〇〇円+税・新教出版社)

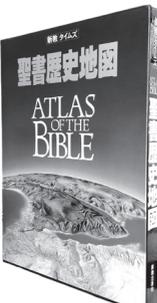
**新教出版社**

**聖書歴史地図**

新教タイムズ プリチャード編 日本語版監修 荒井章三 / 山内一郎他

B4判・272頁  
本体26214円

壮大で立体的なカラー地図と図版600点に詳細な聖書時代史を配し、聖書学・考古学・オリエンタル学・言語学の総力を結集した画期的成果。学校、教会に必携。



ATLAS OF THE BIBLE

---

**カラー版 聖書大事典**

ワイゴーター編 日本語版監修 荒井章三 / 山内一郎

菊倍判・1100頁  
本体39806円

4千以上の聖書用語を71名の専門家が的確に解説。総カラー1頁。



カラー版 聖書大事典

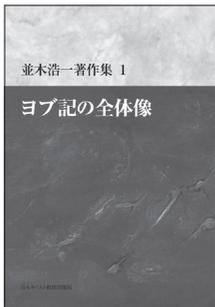
〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1  
TEL: 03-3260-6148  
Email: eigyo@shinkyo-pb.com

ヨブ記との格闘を続けてきた著者渾身の論文集

並木浩一著

並木浩一著作集1

## ヨブ記の全体像



永野茂洋

ヨブ記はそれを語る者の本質を顕わにする。その意味でヨブ記は手強い書物である。同時に人々の関心をこれほど惹きつける書物も他にない。本書は、著者の二〇〇四年以降のヨブ記についての論文六編に、本書のための書き下しの論文二編、および付論を加えて、『並木浩一著作集』の第一冊として刊行された著者渾身の論文集である。

確かにヨブ記には「中途半端なものは何一つない」。義人ヨブに突然降りかかった苦難（著者によれば、これは義人に苦難が降りかかることはあり得ないとするヨブの友人たちの応報の「共同幻想」に対する挑戦である）と、長い沈黙の後に一転して語り始められる神の不条理と無応答に対する強烈な抗議。社会的不正義の告発。そして、神の弁論の後のヨブのそれまでとは正反対に見える態度の変化。ヨブ記を語る者はそれらの一つ一つについて、自分の「読み」とその意味づけを問われる。その全体像を描くことは容易ではない。

著者の並木浩一氏は、『ヨブ記』論集成』（教文館、二〇〇三

年）以来、『旧約聖書Ⅱ ヨブ記・箴言』（岩波書店、二〇〇四年）におけるヨブ記の翻訳と訳注の仕事を挟んで、ヨブ記の全体と部分との対応関係を『相互テクスト性』の観点から押さえ、そこからヨブ記の全体像を説得的に描き出す努力を継続的に展開してこられた。本書でも『相互テクスト性』の成果は十分活かされている。同時に、本書ではヨブ記の多様なテクストの文学様式を読み解くためのアンティフラシス（語意反用）の応用についての考察や（第二部の「ヨブ記のレトリック」、著者の初期の論考「ヨブ記における否定」における『転換』と『転成』の概念、「旧約聖書における契約思想」（本著作集第三巻に収録予定）における申命記神学の双務的契約概念と、預言者に遡る東地中海型の政治的契約思想の二類型の区別（本書ではこれが第三部の付論「ヨブ記における契約——創造と救済」として新たな観点から整理しなおされている）など、これまでの著者の研究成果が縦横に駆使され、ヨブ記の全体像が重層的に描かれている。特に第二部の「ヨブ記とヤハウイスト」では、著者が早くか

ら共感を持って注目してきた二つの書物を取り上げて、両者が時代の課題に対する問題意識の共通性と表現の共通性を持っており、近い時代の作品であることを論じる。大胆な論考であり、旧約研究に携わる者は正面からの応答を求められよう。

第一部の「神の弁論は何を意味するか」は、ヨブ記の最後に登場する神の弁論に関して、近年の脱構築的手法による解釈（神の弁論は世界が道德的応報を反映していないことを示す）と、この世の正義・不正義には関わらない神の形式的絶対性を主張する信仰主義的立場（その意味で神はアモラル「非道德的」である）とが、実は表裏の関係にあることを指摘する。本論文はモラルや時代背景に関心を持たず、共時的にのみヨブ記を読もうとする近年の研究傾向に対する著者の批判であり、挑発でもある。

第三部の「ヨブ記と内村鑑三」と「ヨブ記と賀川豊彦」の二論文も、ヨブ記の多様な読み取りについて読者の目を開かせて

くれる。この二論文を収めているところに本書の特色を認める読者も多いに違いない。

内村鑑三と賀川豊彦はほぼ同時期にヨブ記に本格的に取り組んで、多くの読者を獲得したが、その著作の特色について現代的視点から論じた考察は少なく、賀川豊彦の『苦難に対する態度』（一九二四年）については本書が初めてである。一九章をヨブの主張の頂点として、そこから一挙に苦難の問題を愛の神との出会いの問題へと展開していく内村に対して、賀川は二二・二四章において社会悪の問題に目を止め、それを根拠に抗議を強めていく「近代人」ヨブに注目する。二人の先達の人と思いを論じて、読者に神学的感性とは何かを伝える。本書は、旧約研究者のみならず、広く神学思想に関心を持つ牧師、神学生にとって必読の書となろう。

（ながの・しげひろ＝明道学院大学教授）  
（A5判・三三八頁・本体四〇〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）

## 洋楽渡来考 再論

皆川達夫

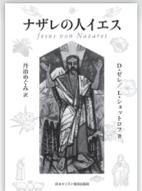
「六段」クレドの同時演奏映像をDVDに収録



「六段」の原曲はグレゴリオ聖歌!? この仮説に中世・ルネサンス音楽史の権威が挑戦。曲の構造や様々な状況証拠の検討から、キリシタン期の音楽の姿を再現する。  
A5判・上製函入・1600頁・6400円

## ナザレの人イエス

ドローター・ゼレ、ルイーゼ・シヨットロフ  
丹治めぐみ訳



二人の女性神学者が、私たちの先入観に挑みつつ、現代的視点からイエスを語り直す。  
四六判・210頁・2200円

日本キリスト教団出版局  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp(価格税別)  
<http://bp-uccj.jp>

もう一度見てみたくなることは必定  
栗林輝夫、大宮有博、長石美和著

### シネマで読むアメリカの歴史と宗教



山我哲雄

あらかじめお断りしておくが、筆者の専門は古代イスラエルと旧約聖書であり、アメリカ史も映画評論も専門外である。それにもかかわらず編集部は、筆者が四〇年以上にわたって週三回は映画館通い（テレビやDVDでは原則として見ない）を続けている映画ファンであることをなぜか知っていて、この原稿を依頼してきた。したがってここに記されるものは、専門知識に基づく責任ある「批評」ではなく、一趣味人の「感想」にすぎない。

本書は、アメリカの神学やキリスト教についての数々の本格的な研究書と並んで、すでに『シネマで読む旧約聖書』と『シネマで読む新約聖書』（共に日本キリスト教団出版局）を出版されている関西学院大学の栗林輝夫氏が二人のより若いアメリカ研究者と共著した、映画でたどるアメリカの宗教史とでも言うべきものである。全体は、「アメリカ大陸「発見」と先住民」、「南北戦争までの時代」、「再建の時代から第一次世界大戦まで」、「二つの世界大戦の時代」、「21世紀まで」の五つの章からなる。このような構成からも分るように、本書はキリスト教に関わる

アメリカ映画を扱われた時代順に紹介する単なる「映画本」ではなく、映画を素材にした統一的なアメリカ文明史であり、共著者の一人大宮有博氏が「あとがき」に記しているように、ここでは「アメリカ宗教史の断片ではなく、通史を把握できる」ように意図されている。根幹はあくまでアメリカ宗教史の流れの叙述であって、それに付随するような仕方方で、それぞれの時代の世相や「時代精神」を代表するような映画が紹介される形になっている。それゆえ、アメリカの宗教における極めて特徴的な現象である18世紀の大覚醒運動やモルモン教の成立などについては、かなりの紙幅を取って詳しく説明されるが、直接関係する作品がないため、映画の紹介がないという場合もある。

扱われる映画の主題は、歴史順で見ればアメリカ大陸発見（『コロンブス』）や先住民との関係（『ポカホンタス』）から、オバマ大統領誕生に関連するアフリカ系アメリカ人の立場（『マルコムX』、『アリ』）や現代の格差社会問題（『8マイル』）にまで及ぶ。作品の年代で見れば、一九四〇年の『怒りの葡萄』（大恐慌時代関連）からダニエル・デイーリスがアカデ

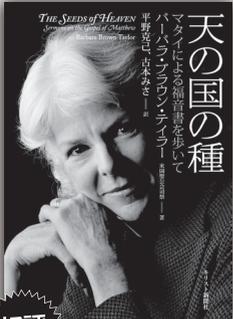
ミー主戦男優賞を受けた二〇一二年の『リンカーン』（南北戦争関連）や二〇一三年のデカプリオ主演の『華麗なるギャツビー』（いわゆる金びか時代関連）のリメイク版までをカバーする。取り上げられるのはほとんどが誰でも知っている名画であるが、それぞれの時代の歴史と社会のコンテキストに据えられることにより、何気ない細部に意外な意味や背景があることが分かり、もう一度見てみたくなることは必定である。

ただし、映画と歴史の関係付けが必ずしも適切とは思われない場合もある。『エデンの東』と第一次世界大戦、『お熱いのがお好き』と禁酒法時代の結び付けはやや牽強付会であり、銃社会関連では全米ライフル協会の会長を務めたチャールトン・ヘストンの代表作として『十戒』と『ベン・ハー』が写真付きで紹介されるが、いずれも銃のない時代の話で、内容的には何の関係もない。むしろ、マイケル・ムーア監督の突撃インタビューにより、聖書的英雄を演じることが多かったこの名優の頑迷

固陋な保守主義者としての素顔が暴露される『ボウリング・フォー・コロンバイン』に言及がなされるべきであった。膨大な数のアメリカ映画のうち、扱われるものが限られるのは当然であるが、アメリカ映画の典型である西部劇（『真昼の決闘』のみ）やミュージカル（『ウエスト・サイド物語』はぜひ取り上げてほしかった）、そして何よりも『風と共に去りぬ』への言及がないのはややさびしい。

（やまが：てつお 北星学園大学教授、日本旧約学会会長）  
（A5判・二〇四頁・本体二四〇〇円＋税・キリスト新聞社）

キリスト新聞社の本  
Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.



好評発売中！

## いま、最も愛されている説教者！ 待望の翻訳！

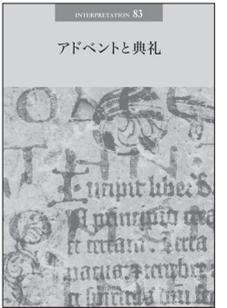
『天の国の種』  
マタイによる福音書を歩いた  
バーバラ・ブラウン・テイラー 著  
平野克己、古本みさ 訳

現役説教者であり、いま最も愛されている聖公会の女性司祭の説教集！ おとぎ話を語るかのように、聴き手をそのただ中へ引き込み、聴く人の心を燃やす説教！  
【書籍情報】一九五二年生まれ。エモリ大学、イエール大学神学大学院を卒業後、米福音伝道協会司祭として、幾つかの教会で牧師を務めた。現在、シシプ州のピトマント・カレッジの教授。アメリカで最も定評のある説教者のひとりであり、世に愛されている書物として翻訳された。

キリスト新聞社  
351-0114 埼玉興和光市本町 15-51  
和光プラザ2階  
TEL. 048-424-2067 (価格に税別)  
E-Mail. support@kirishin.com  
URL. http://www.kirishin.com

本格的な史的イエス研究に導く！  
総合監修／月本昭男、大貫 隆、西原廉太

## アドベントと典礼 日本版インタープリテーション 83



笹森田鶴

日本版インタープリテーション最新号83号は、『アドベントと典礼』である。これは、『イースターと典礼』、『レントと典礼』、『ペンテコステと典礼』と三年掛かりで原著がシリーズ化して取り組んでいた、主要な教会暦と典礼に関する特集の第一段である。「まえがき」にあるように、インタープリテーションでの今回の特集は「教会暦を通して教え、説教をする聖職者のための豊富な資料、題材に常に新しいアクセントとなるようなものを紹介」する。聖公会の聖職・信徒にとって、アクセント以上のアドベントの礼拝の捉え方の幅の再確認を促す論文が取められている。

時間とは一体何なのか。わたしたちは神から与えられている、繰り返すことのない時間を共有している。またわたしたちは礼拝の中で、ことに聖餐式のただ中において、過去と現在と未来を同時に経験するのである。誰も止めることができず、万人に同じように経過し、その積み重ねの中で歴史が形成され、しかし短くも長くも感じるこの時間は、神とわたしたち被造物の関係において一体どのような意味があるのか。この答えをアドベ

ントという教会暦の時間として、つまり瞬間の意味ではなく時間の連続の中の意義また終末への道筋を、アドベントという枠組みの中で本書は捉え直そうとする。

ゲイル・R・オデイは、教会暦の時を直線的ではなく循環的に捉える。しかも時の流れがただ繰り返される循環としてではなく、過去、現在、未来が互いに関連し、救済の物語と今のわたしたちを結びつけるものとしての時である。典礼の暦がかつての物語と今生きているわたしたちの時を交わせ、アドベントはその始まりを告げると言及する。また、「アドベントは教会の時計をリセットする」という表現の中で、アドベントにおける時間が、常に神の世界の約束が完成に向けて動いている途上であることを思い起こさせ、完成されなければ成就とは捉えない現代社会の時間の観念とは全く正反対の時間の世界へ教会を誘っていると述べる。ロナルド・P・バイヤースは、アドベントの主なテーマであるキリストの再臨と神の国についての価値を、古典的な典礼から学ぶことで現代の神学に取り戻そうと試みる。そしてアドベント自体がキリストの再臨と神の国

を指し示す神からの贈り物であることをいかに礼拝で顕著にするかが重要であると説く。ことに聖餐式における聖書日課、説教、感謝聖別禱、記念唱、特別叙唱などを概観する。ウィリアム・ダイアネスは、アドベント特有の視覚的なシンボルや色についての考察を重ね、視覚的なアドベントのイメージについて、それが言語や音楽、建築などのありとあらゆる礼拝に関するものと統合され、終末への期待を垣間見させ信仰の想像力を霊的に養うものとしての意味を語る。ジョン・D・ウイトヴリートは、これまで多くあったいわゆるクリスマススのムード作りに適しているような聖歌ではなく、アドベントに語られるべき終末や預言、キリストの再臨への切望を深く表現した最近の聖歌を紹介し、アドベントの礼拝が希望に満ちたものへと整えられていくことを待望している。

このような本著の内容もさることながら、この度の日本版作成にあたり、吉谷かおる、古本みさ、榎原美美子各氏の女性た

ちが翻訳担当者として日本聖公会の中で登場してきたことは喜びをもって特筆するべきことであろう。礼拝についての知識が前提となるこの度の翻訳作業において、この女性たちの存在は力強い。そして他の女性たちに励ましを与える。聖公会に、また他の教派に対しても今後もこの方々は貢献してくださることであろう。「待つこと」をより考えさせられるアドベントについて取り上げている本著を通して、このような時代をもたらしてくださった神に、心から感謝をささげる。

(2025年11月) 日本聖公会司祭、東京教区聖アンデレ教会牧師  
(A5判・一七二頁・本体二〇〇〇円＋税・聖公会出版)

## 聖公会出版

——新 刊 案 内——

### 聖公会の教会問答 信仰の手引き

著 ● 岩城 聡

聖公会の教理を学ぶ基本は、『祈禱書』の中で大切にされてきた「教会問答」。本書は聖公会の教理、アングリカニズム（聖公会神学）、聖書神学などの深い神学的洞察に裏付けされたその解説書。聖公会の教会・信徒待望の必携の書。



(四六判 本体定価1800円)

### 「他者」へのまなざし

日本版インタープリテーション 84号

総合監修 ● 月本昭男・大貫隆・西原廉太

「他者」について聖書はどのような指針を示しているのか。カインとアベル、人種差別の問題、家族のあり方といったテーマから「他者」の問題を考える。注目の論文4点などを収録。



(A5判 本体定価2000円)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1  
☎03(3235)5681 FAX 03(3235)5682  
http://seikokai-publishing.jimdo.com  
nsk-bookshop@company.email.ne.jp



キリスト教理解の捉え直しを迫る！  
ダニエル・ボヤーリン著  
土岐健治訳

ユダヤ教の福音書  
ユダヤ教の枠内のキリストの物語



岡安 博

訳者は「現代欧米の学者の手になる研究書の翻訳仕事は、定年退職を機にやめにして」（二二三頁）と考えていたのに、それを覆ってしまったのが本書だと「解説・訳者あとがき」に書いている。文献学者としての訳者の仕事の丁寧さは定評があるところだと伝え聞くが、その訳者が「翻訳は、いつものように可能な限り引用古代文献資料の原典と諸訳に当たりつつ、その結果生じた疑問をそのつどボヤーリンにただしなから進めた」（二二七頁）というのだから、本書の学問的確かさとともに「キリスト教を愛し学ぶユダヤ教徒と、ユダヤ教を愛し学ぶキリスト教徒の協働の果実」（二六〇頁）というのも頷けるし、「原資料の正確な解説こそが課題」（「初期ユダヤ教と聖書」）とする訳者をひきつけてやまないのが本書ということになる。

ボヤーリンはダニエル七章の「人の子のような者」を根幹にすえて、文化・宗教史的な考察も行いながら、黙示文学を中心に諸資料を読み解き、福音書（主としてマルコ）に今まで理解されてきたのと異なる見解を提出していて、キリスト教界のみならず世間一般で「常識」とされているキリスト教理解に強

い衝撃を与え、根本的な捉え直しを迫ると思われる。

本書は、「序」「四つの章」と短い「結び」からなるが、著者の問題意識は「序」において明確に述べられている。ユダヤ教とキリスト教とを別個のものとしたのはキリスト教を国教としたローマ帝国によるのであり、イエスと福音書の時代には、「ユダヤ教とキリスト教の境界に関する話は、これまで広く考えられてきたよりもはるかに複雑で興味深い」（三三三頁）のである。そして、三位一体や受肉といったキリスト教固有の思想と考えられてきたものが、その源泉は同時代のユダヤ教に求められ、国家権力とキリスト教・ユダヤ教双方の宗教権力が豊かな多様性を排除して、それぞれの固定化・枠組化を生み出したのである。以下、四つの章では各論的に論じられるのだが、ユダヤ教には「二つの位格を持つ一神信仰」があり、それが「三位一体の最初の二位格となる」（五〇頁）ことや、「諸福音書の神学はイスラエル宗教の伝承の中における根本的な新機軸などではないどころか、この伝承内部の最古の局面へのきわめて保守的な回帰」（五六頁）であること、エチオピア語エノク書に

は「キリスト論のすべての要素が基本的にきちんと整っている」（二〇四頁参照）こと、「福音書における真にその名にふさわしい新機軸はただ一つ、人の子が既に今ここにおり、彼は私たちの中で（歩み）生活している、と声明していること」（一〇一―一一頁）、「マルコはユダヤ人であり、マルコの描くイエスはユダヤ教の食物規定になかった食事を摂っていた」（一三八頁）こと、多くのユダヤ人はイザヤ書五三章の受難の僕をメシア予言として読んできたことなどと論じ、「イエスとその従者の」獨創性（創造力）は、ユダヤ教のテキストの世界の内部で、そして諸テキストが相互に影響し合う世界の内部で、後一世紀のユダヤ教の音の風景のこだまの響きの中で、最も豊かにそして最も感動的に読み取り感じ取ることができることを、強く示唆する」（二七二頁）と結ぶ。

本文もさることながら、本書の約五分の一を占める「解説・訳者あとがき」が圧巻である。本書についての解説やボヤーリ

ンの仕事や立ち位置の紹介がきわめて丁寧になされているが、それを超えて、あたかも一つの論文のようである。今日のイスラエル・シオニズム論、関連して主にドイツ語圏の神学・聖書学に潜む反ユダヤ主義、それらに追隨する日本のキリスト教界とその歴史などが述べられている。訳者の『初期ユダヤ教の実像』などで垣間見られた思想がマグマのように一気に噴出した感がある。

ボヤーリンの論旨は明快であり、同時代のユダヤ教での福音書理解への新たな視点を提供し、訳者の今までの仕事とも重なっている。本書は「一般読者向けの小冊」（二六〇頁）とあり、非専門家としての書評を、というご依頼に無謀ながらお応えした次第。専門家による本書への対論を期待したいものである。

（おかやす・ひろし）日本基督教団信徒  
（四六判・二七八頁・本体二〇〇円＋税・教文館）

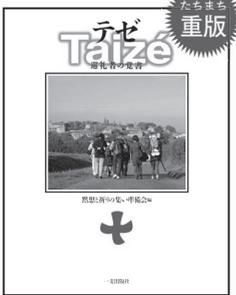


# テゼ

巡礼者の覚書

黙想と祈りの集い準備会\*編  
Taizé

たちまち  
重版



世界中の青年たちの心を  
とらえつづけるテゼ。  
みずからを（交わりの響え）  
とよぶテゼ。

カラー写真満載（約80枚）。  
プレゼントにも！  
月刊「スピリチュアリティ」連載  
待望の単行本化

A5変型判  
定価 1,890 [本体 1,800 + 税] 円  
ISBN978-4-86325-059-8



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
<http://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)

平明にして細心、滋味溢れる書  
船本弘毅著

## 水平から垂直へ 今を生きるわたしたちと聖書



川田 殖

これほど平明にして細心、かつ滋味溢れるキリスト教書を最近読んだことがない。年末年始——本書の教えるクリスマス期間——再読三読してそう思った。その思いは読むほどにますます深まるばかりである。

発行所の会長宮原守男氏の序文——それ自体すぐれた書評——にあるように、本書は公益財団法人日本キリスト教文化協会（以下「協会」）の公開連続講演会の聖書講座をまとめたものであり、ここに収められた十二の講演は、平明にして細心、しかも溢れんばかりの滋味を湛えて、キリスト教入門・聖書入門・信仰入門の三つの役割を見事に果たしている。聴講者の感動もさぞ深かったに違いない。

ここにいう「平明」とはわかりよくはつきりしているだけではない。そこには同時にバランスのとれた公平さも含まれている。導入の自然さ、話題展開のなだらかさ、具体例の適切さ、まとめの見事さ、全体を貫く語り口の暖かさのゆえに、本書はキリスト教や聖書にまったくなじみのない人をも、その核心へと案内してくれる。しかも歴史的産物としてのそれらが本来意

味したことを明らかにするとともに、今を生きるわたしたちにそれらが何を語っているかが明らかになるといふ、複眼的配慮が一貫していて、よく読めば誰にでも納得される公平さを湛えている。絶妙のバランスというほかはない。

ここにいう「細心」とは、いわゆる「こまやかさ」で、綿密であるとともに心がこもっていることである。その綿密さは、まず、この連続講演が、生きること・出会い・希望・奉仕・苦難・摂理・死生観・自由と愛・時と永遠・信仰の中心点・十字架の指し示すもの、といった人生の目の付け所のほとんど全体に触れていることに表れている。またこれらの問題も、創世記・イザヤ書・ヨブ記・福音書・使徒言行録・ローマ書・コリント書・ガラテヤ書・ヘブライ書など、聖書全体の勘所を押さえた釈義の光に照らして説明されるところにも表れている。いずれも教育者であるとともに牧師、つまり魂の看とり手（ゼーブルガー）としての著者の多年にわたる研鑽と思索・実践と配慮の結晶であり、だからこそ強い説得力をもって人の心をつたのである。たとえば本書のタイトルに選ばれた「水平から垂

直へ」と題するヘブライ書を通してのメッセージの深さ豊かさはいかばかりか。「垂直を指す水平の旅は、垂直に支えられた水平の歩み」。いくど読み直しても深い示唆と希望を与えられるこのような言葉が本書の随所にちりばめられている。

このような味わいの深さ・豊かさをここでは「滋味」と言い表した。俗にいう「おいしくて体に良い」「おもしろくて為になる」のは、理屈ではなくて、味わい摂取する者の実感であるが、それは材料のよさとともに、料理人の実力・心構えによることが多い。聖書が天下一品の精神的栄養源であることはいうまでもないが、その解明に人を得てこそ、その味わいが、今を生きるわたしたちの血となり肉となることもまた疑いない。ここに今の日本は人間としての目の付け所の中心を見失い、あまたの思い煩いに散り果てているのごとく見える。いまこそ人生の座標軸が正しくすえられるべき時であるが、そのために聖書の真理を平明・細心かつ滋味深く示す本書の意義はきわめて

大きい。  
筆者はかねてから著者のことを、いまや一学校・一教会を超えて、あまねく心ある国民に語りかける真理の使徒だと考えている。むかし朝廷から国家の師表たるべき高僧に「国師」という称号が贈られたが、著者はそれを拒むであろう。むしろ「キリスト・イエスのしもべ、福音のために召されて使徒となった」船本弘毅の名を喜ぶであろう。国師にまさる使徒の熱誠あふれる語りかけが、広く心ある日本人に届くよう希って止まらぬ。

（かわだ・しげる＝哲学者）  
（四六判・二四〇頁・本体一九〇〇円＋税・教文館）

キリスト新聞社の本  
Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.

Christian Year Book 2014  
わが国唯一のキリスト教総合年鑑  
キリスト教年鑑2014  
キリスト教年鑑編集委員会 編

好評発売中！

▼わが国唯一のキリスト教総合年鑑！  
キリスト教年鑑2014

一九四八年の創刊以来通巻五七巻の継続性と新しい時代に対応した編集に努めます。最新のデータブックとしてあるいは歴史的背景資料として幅広く活用できます。二〇一四年版をご購入いただいた読者様はPC上で情報を閲覧できる会員制サイト「キリスト教年鑑WEBサービス」の利用登録が無料でできます。WEB経由で最新の情報をご覧いただけるようになります。

■B5判 128頁 1,400円

キリスト教年鑑WEBサービスへのアクセス・登録はコチラから  
<http://www.christianyearbook.net/>

キリスト新聞社  
351-0114 埼玉県和光市本町 15-51  
和光プラザ2階  
TEL 048-424-2067 (価格ほ別掲)  
E-Mail support@kirishin.com  
URL <http://www.kirishin.com>

繰り返し響く前進への呼び声

加藤常昭編

シリーズ・世界の説教

## ドイツ告白教会の説教



天野 有

貴重な信仰告白の闘いの記録である。「ドイツ告白教会の説教者たちが戦った戦いは今も続いている」。「この現代日本のまっただなかで説教を語り、聴く者たちならば、それがよくわかる」。「この説教集を通じてわれわれ自身の課題を改めて深く知り、決意を新しくしたい。それが私の……祈りです」。編訳者の加藤常昭氏の「あとがき」の言葉である。通読し終えた今、その「祈り」を共有したいと願う。

美しい表紙は（今年八〇周年を迎える）バルメン宣言採択直後の報告冊子（と思われる）の写真で飾られている。「ドイツ福音主義教会の告白会議。バルメン一九三四——諸講演と諸決議」という表題の後、《教会を保持しようるのはわれわれでもその父祖でもその子孫でもない。それを昨日も今日も明日もなし給うのは「わたしは世の終わりまですべての日々あなたがたと共にいる」と語り給う方、イエス・キリストである》という趣旨の文章が、末尾にマルティン・ルターの名を付して引用されている（マタイ二八は宣言第六項の引用聖句）。冒頭「序説」（編訳者）では、特に「2バルメン宣言の説教学的考察」「3

る。例えば、説教者が指し示すイエス・キリストの十字架から発する光が直ちにガマリエルの中立性（＝中間派「三三三頁」をも暗示しよう）の実相を照らし出しこれを退ける（九一―九七頁）！この主ご自身の闘いの中に言わば投げ込まれることによってニーメラー牧師に「主イエスの声」——或る御言葉——が「初めて」「はっきり」聴こえてくるということが起こった（七九―八〇頁）。そのゆえに彼は改めて会衆に呼びかける。福音は福音で、教会は教会で、信仰告白は信仰告白であり続けなければならない（八二頁）、と——ニーメラー逮捕の数カ月後の待降節、D・ボンヘッファーは『キリストに従う』（Nachfolge）を獄中の彼に贈った。「兄弟たる感謝として！著者よりも彼その人の方がより良く書き得るであろう本を」との献辞と共に。一九四一年、本書二三名の説教者の一人H・J・イーヴァントも、その後ザクセンハウゼン強制収容所に収容されていた彼に感謝の献辞を添えて「ルターの教えによる信仰の義」（邦訳は『ルターの信仰論』）を贈った。イーヴァントは、「福音主義教会の現実に失望し」カトリックに移ろうとしたニーメラー（四九頁）ただ一人のためにこの本を書いたという（ニーメラー夫人からゴルヴィッツァーへの伝——クラッパート教授による）。そして、一九五二年、K・バルトの寄稿文「バルメン」（ニーメラー六〇歳祝賀論集）。バルトにとって、「同志」ニーメラー（「われわれの中で、かつて（一九三

説教史におけるドイツ告白教会」（告白教会は「一種の説教運動」であった！）が重要であろう。主要部の、訳者によって選ばれた二三名の説教者による三五篇の説教（僅かに戦後のものも含む）は、「ドイツ国内の教会の牧師として説教し続け」「教会員と共に戦っていたところで語られた説教」（三六頁）である。その都度説教者についての編訳者による簡潔適切な紹介がなされ、また、トーマス・マンの「序文」やH・ゴルヴィッツァーの「序言」（弁証法神学が「説教の危機」から生まれた「神学運動」だったこと、ベルリン・ダーレム教会における若手の同僚牧師として、一九三七年七月ニーメラー牧師が逮捕された直後から「とりなしの礼拝」を始め、「戦争が終わるまでの八年間、教会員は毎晩」「一」、その礼拝を守るために集まったこと等）やH・デイームの説教論が織り込まれている。

さて、私自身は他のどの説教者よりもM・ニーメラー牧師の説教から圧倒的印象を受けた（当時の状況・雰囲気がよく伝わってくる、という意味でも。但し一九一―二〇頁！）。ここでは、説教がそのまま闘いの言葉・闘いの行為となってい

四年一月）……ヒトラーに面と向かって抵抗した唯一の人！（四三頁も参照）——その「代償」がヒトラーの「個人的囚人」としての八年間の強制収容所生活だった（H・E・テート）は「《バルメン》の体現者」であり、「教会闘争」とは「範例的にはダーレム教会におけるニーメラー牧師のことを意味したし意味している」のであり、ニーメラー牧師を憶えるということ（は《バルメン》が「前進への呼び声」として「耳に」響くことなのだ）。

七七年前の「ダーレム教会におけるニーメラー牧師」の説教——信仰告白——は（だけではないがしかし「範例的に）、つい先頃（昨年末）起こった「特定秘密保護法」の衆参両議院での強行採決と安倍首相の靖国神社参拝によって一九三三年のナチズム・ドイツの政治状況——「秘密国家」「軍事国家」への道（「特定秘密保護法」に反対する学者の会）の二〇一三年二月七日の抗議声明）——へと今や踏み出しつつある（?!）「現代日本のまっただなかで説教を語り聴く」われわれ——教会と神学——にとっても、直ちに、「前進せよ！」との「呼び声」として繰り返し響いてくることだろう。本説教集を通して与えられる励ましと慰めとのゆえに、われわれは編訳者に深く感謝しなければならない。

（あまの・ゆう＝西南学院大学神学部教授  
A5判・五〇八頁・本体四六〇〇円＋税・教文館）

審判と救済の神学的意図を明らかにする  
大串 肇著

## 頑な心と新しい心

エレミヤ書の審判と  
救済の通告における人間論的視座



## 江本真理

本書は一昨年東京神学大学から神学博士号を授与された学位論文である。もともとは、著者がドイツ・ボン大学留学中、W・H・シユミット教授の指導のもとで、独文でほぼ完成まで書き上げた博士論文を、帰国後牧師として伝道牧会に従事しながら、日本語に翻訳しつつ、最新の研究や注解書と対話しつつ加筆修正し、吟味を重ね、漸く一つの論文にまとめ上げられたものである。多忙を極める中にありつつも、ひたむきに研究を続けられ、その成果を積み上げてこられた著者の真摯な姿勢とひとかたならぬご努力に心からの敬意を表すると共に、その成果がこのような形で出版されたことを一読者として大変嬉しく思う。

さて、本書の狙いは、エレミヤ書の審判預言と救済預言の中に共に見出される「心」(ヘブライ語「レブ」)という人間論的概念に注目し、審判と救済という相克する二つの使信の神学的意図と関連を明らかにすることにある。つまり、審判預言には、「強情」、「背信」、「悪」といった、人間の心の底に刻み込まれて、もはや拭い去れない罪、救い難い「頑な心」に対する

深い洞察が見られる。他方、救済預言においては全く対照的に、例えば三二章の「新しい契約」の使信には、ヤハウエ自らによって「心」に律法が刻み込まれた、いわば「新しい心」をもった人間の創造が描かれている。ところが、この審判と救済の使信の関係について、これまでの研究では十分に注目されてこなかった。

本書の意義は、「心」という概念を含むそれぞれの使信を綿密な積義的分析を通して、おのおの神学的独自性を明解にするとともに、その関連性について論じている点にある。つまり、後代の編集にもかかわらず、救済預言はエレミヤ自身の人間論的認識と罪に対する洞察を前提に形成されており、審判の逆転としての究極の終末論的救済を語っている。審判は既に成就したのであり、来るべき救済は人間の可能性ではなく、預言者が告知したように審判をもたらしした歴史に働く、唯一の神だけがもたらすことが出来るはずである。こうして相克するエレミヤ書の使信には、「第一戒」の精神が貫かれているというのである。

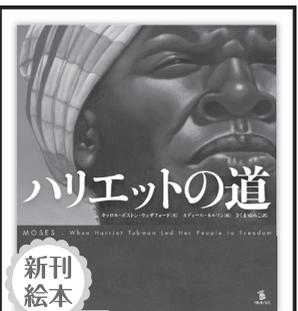
本書の構成は、序論に続いて、(A 審判の通告における「心」として、「民の心の板に刻まれた罪」(二七章)、「民の心の悪」(四章)、「民の強情で、愚かな心」(五章二〇―二五節)、「王の心」欲望」(二二章二二―一九節)、「預言者たちの心」偽り」(二三章九節以下)の各箇所が取り上げられ、さらに、(B 救済の通告における「心」として、「新しい心」(二四章)、「新しい契約」(三二章三二―三四節)、「永遠の契約」(三三章三六―四一節)の各箇所が取り上げられる。各箇所は、私訳、本文批判、様式史、文献批判、編集批判という積義的分析を経て神学的意図が明らかにされ、さらに「心」の用法について考察が為される。

本書はH・W・ヴォルフや著者の指導教授でもあったW・H・シユミットによって牽引され、培われた伝統的なドイツ旧約学を彷彿させる本格的な研究書である一方、最新の研究成果とも批判的に対話している意欲的な労作である。そのことは注

の中に記載されている、本論を裏付ける膨大な例証や文献にも示されている。また、複雑多岐にわたる研究史が序論の中で歴史的かつ方法論上から整然とまとめられている。このような意味で、本書は説教者のみならず、旧約聖書や積義を深く学びたい、エレミヤ書についてもっと知りたいと思う読者にも、よい案内役となるはずである。著者の日々の伝道牧会の働きの只中における神学的取り組みの姿勢に、絶えず教えられ励まされてきた者の一人として、このような長年の研究成果が示されることは大きな恵みであり、心から感謝したい。また今後のさらなる取り組みとその成果に期待するものである。

(えもと・しんりー日本ルーテル教団竹の塚ルーテル教会牧師)

(A5判・三三八頁・本体四八〇〇円+税・教文館)



## ハリエットの道

キヤロル・ボストン・ウエザフォード文  
カデイル・ネルソン 絵 さくまゆみこ 訳



19世紀アメリカにおいて、自らの手で自由をつかみ取り、多くの黒人奴隷を救い出したハリエット・タブマン。神の助けを信じ、力強く生きた黒人女性の物語を描く。

◆298mm×273mm・48頁・本体1800円+税

## 姜尚中氏 推薦!!

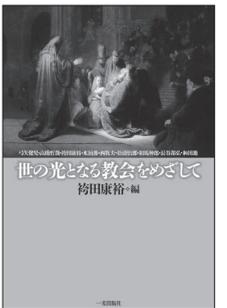
(聖学院大学全学教授)

彼女の苦難に満ちながらも、神の愛に包まれた物語は、現代の出エジプト記として、今も隷従と貧困に打ちひしがれた数多くの人々に読み継がれていくに違いない。

日本キリスト教団出版局  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp(価格税別)  
<http://bp-uccj.jp>

「世の光である」教会が「世の光となる」ために  
袴田康裕編

## 世の光となる教会を目指して



田邊由紀夫

本書は、日本キリスト改革派西部中会の「世と教会に関する委員会」主催による8・15集会および2・11集会の講演と、それに関連する諸集会の講演を加えたものである。これは、二〇〇五〜二〇〇九年までの講演を纏め同年に出版された『平和をつくる教会をめざして』に継ぐ、第二講演集である。

まず、各講演題を挙げておこう。  
「神の国と地上の平和——終末論的視点から教会の平和倫理を考える」弓矢健児、「キリスト教は『靖国』を超えられるのか」高橋哲哉、「宣教の課題としての教会の社会的責任——私たちの戦いの視点」袴田康裕、「教会が社会と国家に向き合う時——歴史から学ぶ」水垣渉、「神の言葉による戦い——荒野の時代の中で」西牧夫、「教会の信仰と社会的使命——信仰の視点から」松浦悟郎、「愛と平和の手紙としての教会形成」相馬伸郎、「時代の危機とキリスト教——矢内原忠雄の思想と信仰に学ぶ」長谷部弘、「平和についての教会的一致のために——ウエストミンスター信条を持つ教会として」袴田康裕、「原発問題で私たちが問われていること——キリスト教倫理の視点

から原発問題を考える」弓矢健児、「新しい局面を迎えた改憲問題」和田進。

これらの講演は二〇〇九年から二〇一三年までに行われたもので、その演題から大体想像がつくように、教会が国家や時代の諸問題にいかに取り組んでいくか、という問題意識に立っていないずれも深い洞察による講演録である。その間、日本社会は自民党政権から民主党政権そして第二次安倍内閣の発足と、政治は変動し続け、特に戦後日本の基盤である日本国憲法の改正が公然化し、一方で、日本ばかりか世界を震撼させた東日本大震災と原発事故があり、今なお苦悶の現実がある。こうした日本社会に対する危機意識がそれぞれの講演の背景となっている。

なぜ教会がこのような問題に取り組み、そして発信しているのか、その答えは編者である袴田康裕氏の二つの講演、そして次に引用する「あとがき」に明確に示されている。

「日本キリスト改革派教会は、ウエストミンスター信条を教会の信仰規準として採用しています。そしてウエストミンスター信仰告白が『国家的為政者について』（第二十三章）の章をある。他方、そうした勢力から教会を護るために一線を画してきた教会は、あつものに懲りてなますを吹くがごとく、教会内で社会や政治の問題を話題にし、聖書的神学的信仰告白的に真摯に考えを深めて行動していくエートスは極めて希薄であった。それはやはり、信仰的視座が不分明だったことによる。」

しかし、本書名にあるように、「世の光である」教会は、この世の政治や文化の根底・深層に起こっている事柄に真の光の福音を輝かす「世の光となる」責務がある。また時代精神に覆われ暗澹たる世に、「光の子」として責任的信仰告白的に仕えるキリスト者を遣わす責務がある。本書に現れた一連の取り組みは、まさにそうした教會的信仰告白の営為だと言える。一派の一中会の一委員会がこうした道筋を示してくださったことに、感嘆と共に、深く感謝の意を表したい。

（たなべ・ゆきお 日本基督教団茨木教会教師）  
（四六判・四〇二頁・本体三〇〇円＋税・一麦出版社）

持つているように、国家や国家的為政者を信仰の視野で把握する視点をもっています。それゆえ私たちの委員会は、単なる政治・社会問題としてではなく、信仰告白の問題として、国家や時代の諸問題に向き合うことに努めてきました。教会の歴史が明らかにしているように、教会が真にキリストの教会であるためには、国家や公権力を信仰の視点で把握し、自らを正しつつその責任を果たしていかなければなりません。  
教会が教会として国家や時代の諸問題にいかに関わっていくべきか、それについて日本の教会はこれまで明確な神学的筋道・視座を持たず、めいめいの工夫でここまで来てしまったのではないか。殊に筆者が属す日本基督教団ではその混乱が甚だしい。「教団紛争」を産んだ所謂「社会派」の人々は、教会には預言者の使命があると大言してきたが、内実は時代のイデオロギーやヒューマニズムに見事に引きずられたものだった。その果ては未受洗者陪餐に至り、福音主義教会の正体を失いつつ



## キリスト教書総目録 2014年版

創刊25周年記念特集号 巻頭カラー  
佐藤 優氏 橋爪 大三郎氏  
若松 英輔氏

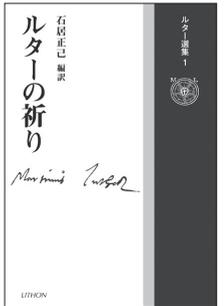
内容  
総記年鑑 辞(事)典 図説年表/全集(著作集) 叢書 講座/聖書/神学/宗教学 思想 倫理/伝記(ライオン) 信仰入門書 人生論 説教集/文学小説 評論 カラー 詩 劇 音楽 美術 建築 教育 保育 心理 社会福祉/児童 絵本/讃美歌 式文/DVD CD カセット ビデオ/キリスト教関連雑誌 新聞 書名索引/著者索引/掲載出版社名簿

■ A5判 一般頒価1冊300円 送料240円  
■ お近くの書店様でお求めください。

キリスト教書総目録刊行会  
事務局 〒162-8710 東京都新宿区  
東五軒町6-24 トーハンビル内  
TEL.03-3266-9521

祈りとは「霊的な呼吸」である  
 マルティン・ルター著  
 石居正己編訳

ルターの祈り  
 ルター選集1



大柴譲治

主権とイニシアティブはいつも神の側にある。「シエマー、イスラエル！」(申六・五)とある通り、神が語り、人がそれを聴くのである。どこまでも神が主であり、人間は従である。ここで私は「聞く」より「聴く」という語を、それも許されるなら「聴く」という旧字体を用いたい。「聖」が「王の口から出る言葉に耳を傾ける」「徳」が「目と心で十分に聴き取った王の言葉を行う」という意味を持つと同様、「聴」という語は本来「耳と目と心を一つにして、十全に用いて王の声に耳を傾ける」という意味を持つ。向こう側から響いてくる聖なるお方のみ声に耳を澄ませ、無心になって全身全霊を傾けてゆく。神が語り、人が聴く。これこそ聖書が私たちに求める「祈り」の姿勢である。この『ルターの祈り』はそれを読む者に体験させてくれる書物である。ルターの祈りは声に出して祈るとよい。ルターがいかに徹底して「祈る人」であったかがよく分かる。今から三年後の二〇一七年に「宗教改革運動 Re-formation」は五百年の節目を迎えるが、「祈るルター」を知ることが私たちの原点を再確認することでもある。ルターは毎朝毎晩、しば

しば食事中にも祈りを捧げた。歩きながらでも立ったままでも、「独特の仕方」で天に向かって手を挙げ、目を上げて声に出して祈った。だからこそ、卓上語録や『われここに立つ』というウォルムス国会での言葉同様、周囲に記録された祈りも多かったであろう。しばしば彼は祈りの中で詩編と教理問答を用いる。その意味でも修道院での体験はルターの中で後々まで生き続けていたといえよう。ルターの祈る姿勢についての証言——「しばしば彼は、お客を食卓に残して窓辺に退き、ひとりで半時間以上も祈った」(マセシウス)、「勉強に最もよい時間のうち少なくとも三時間を祈りに費やさない日とはなかった」(デイトリツヒ)、「ルターがウォルムスで経験したことは、彼の自室での祈りにふれなくては完全とはいえない。……この祈り(七九—八一頁)も彼の偉大な讚美歌『神はわがやぐら』の散文版である」(H・E・ジェイコブス)。

の鼻に吹き込んで生命を与えたように(創一・七)、私たちもまた神の息を吸い込んで生きる。神の呼吸は人間の呼吸、人間の呼吸は神の呼吸。「インマヌエルの神」は傍らにあつて私たちと「呼吸を共にしてくださる神」。「礼拝」とはそのような神の「安息」に共に与る時空間であらう。

神は必ずその祈りを聞かれるとルターは信じていた。祈りが神に喜ばれ、必ず聞き入れられることを疑ってはならないが、いつでもそれが祈る通りにならねられるとは限らない。それがどのように実現するかという「時、場所、分量、目的などは、神がよいようにしてくださることを信じて、神にまかせざるべきである」(「善きわざについて」)。編者の石居正己氏はあとがきでこう記す。「神が語ってくださることを信じて、何ができるといふことにまさって大きい出来事はない。またそれに答えて祈る祈りが教会を保ち、支えてきたのである。……ルターは、神が祈るべきではないと言いたもうなら、それについて願

うことをやめるべきであるとして、神の主権を確保しつつ、しかし実際の問題には『私たちは祈るなという命令をもっていない』、むしろ、『祈れという命令を受けている』と述べている。神の全能の主権と、その恵みのみ心への確信が、祈りを支えている柱なのである。

最近、祈りに関して「さかなとねこ」が大切と伝え聞いた。「讚美、感謝、慰め、執り成し、願い、告白」の最初の語を組み合わせると確かにそうなる。一五〇ある詩編の四割が嘆きの詩編なのだから、「慰め」のところに「嘆き」を加えることもできよう。私たちが神に祈ることができるといふことは、何という恵み、何という喜びなのであろうか。生き生きとした信仰の息吹きを感じさせてくれる有益な書物がここに再版されたことを共に喜ぶたい。

(おおしば・じょうじゅ日本福音ルーテルむさしの教会牧師)  
 (四六判・二一九頁・本体二二〇〇円+税・リトン)



今すぐ  
 アクセス!

本のひろば ホームページ

<http://www.bunnsyo.or.jp>

●2013年1月号から前月号まで、ホームページで閲覧できます。

「キリスト教文書センター」のホームページから書評誌『本のひろば』をクリックしてください!

一般財団法人  
 キリスト教文書センター  
 〒162-0814 東京都新宿区  
 新小川町9-1  
 TEL・FAX 03-3260-6520

既刊案内 (2013年12月～2014年1月) (定価は本体価格+税)

著 訳・編 者	書 名	判型	頁	本体価格	版 元	発行日
月本昭男、 大貫隆ほか監修	アドベントと典礼 —日本版インタープリテーション83	A 5	172	2,000	聖公会出版	12/1
ジョン・ドミニク・クロッサン著 飯郷友康訳	イエスとは誰か —指定イエスに関する疑問に答える	四六	192	1,900	新教出版社	12/25
大野恵正	旧約聖書入門1 —現代に語りかける原初の物語	小B6	270	1,800	〃	12/25
樋口進	最も大切なもの —若人たちへのチャペル・メッセージ	小B6	213	1,600	〃	12/25
船本弘毅	水平から垂直へ —今を生きるわたしたちと聖書	四六	240	1,900	教文館	12/10
大宮溥	救いの歴史と信仰の倫理 —ローマ書講解説教下	四六	170	1,600	〃	12/25
ダニエル・ボヤーリン著 土岐健治訳	ユダヤ教の福音書 —ユダヤ教の枠内のキリストの物語	四六	278	2,000	〃	12/25
R.A.クライン／C. ボルケ／M.ヴェンテ編 佐々木勝彦ほか訳	キリスト教神学の主要著作 —オリゲネスからモルトマンまで	A 5	444	4,000	〃	12/25
「覆刻・日本基督一教会 信仰ノ簡条」出版委員会編	覆刻・日本基督一 教会信仰ノ簡条	A 5	926	18,000	〃	12/25
トーマス G.ロング著 吉村和雄訳	歌いつつ聖徒らと共に —キリスト者の死と教会の葬儀	A 5	330	4,500	日本キリスト 教団出版局	12/16
並木浩一	批評としての旧約学 —並木浩一著作集2	A 5	350	4,000	〃	12/17
ルター研究所編	宗教改革五〇〇周年とわたしたち1 —ルター研究別冊1号	A 5	140	2,000	リトソン	12/14
アンゼルス・ グリューン	聖書入門	四六	214	2,000	キリスト新聞社	12/18
E. シューラー著 小河陽ほか訳	イエス・キリスト時 代のユダヤ民族史Ⅲ	A 5	418	9,000	教文館	1/10
月本昭男	旧約聖書に見るユー モアとアイロニー	B 6	152	1,600	〃	1/25
アウグスティヌス著 金子晴勇ほか訳	神の国 —キリスト教古典叢書	A 5	792	6,200	〃	1/25
キャロル・ボストン・ウエザフォード文 カデイル・ネルソン 監 さくまゆみこ 訳	ハリエットの道	B4変	48	1,800	日本キリスト 教団出版局	1/24
イレネ・デーシエ著 赤坂桃子訳	お父さんの手紙	小B6	126	1,000	新教出版社	1/31
藤井創	原発社会に生きるキリスト者の責任 —いのちを選び取る生き方	A 5	120	1,300	〃	1/31
市川康則	教会派教義論 —改革派教義6	A 5	506	5,400	一麦出版社	1/16
潮義男	神の国の奥義上 —説教マタイによる福音書1章～14章	A 5	316	2,800	ヨベル	1/20

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台青葉区錦1-136 敷島センター17号F	022-223-2736	共用		fcqwks524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	平新町短靴館22 千葉カレスファッションセンタービル	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3235-5681	03-3235-5682	http://seikokai-publishing.jimbo.com	seik-bookshop@company.email.ne.jp	00140-8-50880
アパコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://members3.jcom.home.ne.jp/taishindo/	taishindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		kirisu@youstotenhanna@ybb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231		biblehouse@bible.or.jp	
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biglobe.ne.jp/~yodobara.csb/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00680-8-47
静岡聖文舎	420-0812	静岡市葵区古庄3-18-12	054-264-0264	054-264-4416		info@s-seibun.co.jp	0810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepage3.nifty.com/seibunsta/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		kjordan@inbox.kyoto-intet.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://www11.ocn.ne.jp/~osakacbs	ochtbok@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店	591-8044	堺市北区中長尾町2-1-18	072-257-0909	072-253-6132		sakai-x@topaz.plala.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-331-9833			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0016	広島市中央区鞆町7-28	082-228-4914	082-223-0951			01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shrit.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一町1-23	089-921-5519	089-921-5413		sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上富野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbook.net/	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖縄キリスト教書店	901-2134	浦添市港川2-25-1	098-877-7283	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283
エマオ・BOOKセンター	904-0004	沖縄市中央3-14-2	098-929-3776	共用	http://www.okinawacbs.com/	emacbs@yahoo.co.jp	

新教出版社

# 福音と世界

2014年4月号

特集 神のことは？—聖書を神学する

現代に旧約聖書を「神の言葉」として読む

……小友聡

ユダヤ教の聖書解釈について……大澤耕史

ルターと聖書学から考える……安田真由子

聖書は「神のことは」か？

——バルトの洞察：福島揚

聖書をめぐる対話……月本昭男×並木浩一

新連載 ■ 新約釈義 I コリント……青野太潮

A5判・本体571円・〒68円(2014年3月まで) 定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

編集室から

一月にスイスで開かれたダボス会議（世界経済フォーラム年次会議）での安倍晋三首相の発言が議論を呼んでいる。各国のコラムニストらが招かれた「国際メディア会議」（IMC）でインタビュにに応じた際、今の日中関係を第一次世界大戦前の英独関係になぞらえ、日中間で戦争が勃発する可能性を明確に否定しなかったことが問題となったのである。今年は第一次世界大戦から百年を迎える年なので、安倍首相の言葉はそのことを踏まえてのものと言われている。

周知のように、第一次世界大戦に敗北したドイツでは帝政が倒れ、共和制が成立したが、やがてヒトラー率いるナチスが政権を掌握し、第二次世界大戦へと突入する。一九三四年、ドイツ告白教会はナチズムに対する抵抗運動の基本方針となる「バルメン宣言」を採択し、教会闘争を展開した。その宣言文と闘争に参加した幾人かの牧師の説教は今月号の本誌（一八一―一九頁）で取り上げた『シリーズ・世界の説教 ドイツ告白教会の

## なぜ「秘密法」に反対か

特定秘密保護法に反対する牧師の会編



「牧師の会」呼びかけ人と賛同者から33名の牧師が、なぜこの法に反対するのか、私たちがキリスト者として、教会として何をすべきかを熱く訴える。いま必読の書。  
◎ A5判・136頁・1300円＋税

説教」に収められている。

その「编者あとがき」の中で加藤常昭氏は「ドイツ告白教会の説教者たちが戦った戦いは今も続いていると思います。この現代日本のまったただなかで説教を語り、聴く者たちならば、それがよくわかると思います」（同書、五〇五頁）と記している。加藤氏の指摘が単なる言い過ぎではないということは昨年末の「特定秘密保護法」の成立がよく示している。この法案の成立から間もない二月二日付の『東京新聞』（朝刊）に法案そのものの危険性を指摘する一つの投書が掲載された。それにはドイツ教会闘争の指導者の一人、マルティーン・ニーメラー牧師の有名な言葉「彼らが最初に共産主義者を攻撃したとき……」が紹介されていた。私たちが同じ轍を踏まないためにはニーメラー牧師を始めとするドイツ告白教会の牧師たちの「呼び声」に真剣に耳を傾けることが今まさに求められているのである。

（中川）

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1  
TEL: 03-3260-6148  
FAX: 03-3260-6198

第41回  
 配本

現代聖書注解

## ローマの信徒への手紙

P. アクティマイアー  
 村上実基 訳



INTERPRETATION  
 A Bible Commentary for Teaching and Preaching

**本注解シリーズ完結まで残り3巻!**

現代聖書注解 全44巻

## ローマの信徒への手紙

P.アクティマイアー 村上実基 訳

聖書本文の背後にある思考の流れを辿り、パウロが語ろうとしているものを鮮やかに浮かび上がらせる。

◆A5判 上製函入・402頁・本体5,800円+税

本書により **新約聖書注解は完結します!**

新約聖書注解 全17巻セット  
 本体97,518円+税

ぜひ揃えて  
 ください!

## 預言者の想像力

現実を突き破る嘆きと希望



W.ブルグゲマン  
 鎌野直人 訳

アメリカを代表する旧約学者が、現実と鋭く対峙する預言者のテキストに密着し、現代教会に楔を打ち込む。

◆四六判 並製・272頁  
 本体2,800円+税

## 信とは何か

現代における〈いのち〉の泉

2013年上智大学神学部夏期神学講習会講演集



宮本久雄 編著  
 武田なほみ

哲学、神学などの視点から「信」というテーマに挑む。私たちを生かし、希望を与える「信仰」に迫る1冊。

◆四六判 並製・354頁  
 本体2,800円+税

## 聖書入門 主を畏れることは知恵の初め



落合建仁／小室尚子

旧約聖書と新約聖書の基本を、各10章ずつで簡潔に解説。聖書の基礎を知りたい方への入門書としてお薦め。

◆A5判 並製・120頁  
 本体1,300円+税

## 賀川ハルものがたり



鍋谷由美子

賀川豊彦を支え、自らも伝道、講演を行い、彼の遺志を継ぐ者となった女性の生涯を写真を交えて紹介する。

◆四六判 並製・160頁  
 本体1,500円+税

# アツシジの 聖フランシスコの面影

教皇フランシスコに捧ぐ

●本体2,800円

門脇佳吉編集・解説 池利文写真



アツシジの  
聖フランシスコの面影  
長谷川アツシジに撮る

アツシジをはじめ、聖フランシスコゆかりの地の風景を多数収めた珠玉の写真集。自然を愛し、清貧に生き、平和を祈った中世の聖者の足跡を辿る〈巡礼の旅〉。

# 学問論と神学

W.パネンベルク 濱崎雅孝ほか訳 ●本体6,000円

学問論をめぐる今日の論争を整理しながら、キリスト教神学の学問的妥当性とその根拠を明らかにし、神学の新しい全体構造を打ち出した論争の書。

キリスト教  
古典叢書  
神の国下  
アウグスティヌス 泉治典ほか訳  
後世に多大なる思想的影響を与えたアウグスティヌスの名著の全訳。下巻では聖書における人類の歩みを鳥瞰し、その歴史を導く神の救済のわざを説く。  
●本体6,200円



# 贖罪論とその周辺

組織神学の根本問題2

近藤勝彦 ●本体5,500円

古代より組織神学の根本問題として扱われた贖罪論は、神学のあらゆる分野に関わり、今なお熱く議論されるテーマである。教会と信仰継承の危機にある現代のキリスト者にとって、贖罪論とは何か？ 教父・宗教改革者・近現代の神学者らの言説を検証しつつ、キリスト教の中心教理の現代的な再定義を試みる論文集！



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549

本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e-shop教文館

市場倫理と  
キリスト教倫理  
連幸市  
帯福場

一九七七年七月一七日 第三種郵便物認可  
二〇一四年四月一日発行(毎月一回)一日発行

発行所 東京都新宿区新小川町九一 一般財団法人キリスト教文書センター  
電話03-3360-6550 振替00170151-2679  
発行人 本村利春 編集人 中川 忠 印刷所(株)平河工業社  
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話03-3260-1567

定価七五円(税抜七二円) (〒60円)  
一年分一三〇〇円(送料共)

本のひろば 第六七五号 二〇一四年四月号